

令和3年度新潟県病害虫発生予察情報・特殊報第1号
(ダイズ黒根病のエダマメにおける初確認)

令和3年8月19日
新潟県病害虫防除所

- 1 病害名 ダイズ黒根病
 - 2 病原菌 *Thielaviopsis* sp.
 - 3 発生作物 エダマメ
-
- 4 発生確認の経過及び国内の発生状況
 - (1) 令和3年6月、新潟県内のエダマメ（品種：小平方茶豆、極早生茶豆、初だるま）ほ場において、地上部の生育が不良となる症状が発生し、根の生育も悪く、一部の根に黒変症状が観察された（図1、2）。新潟県農業総合研究所園芸研究センターで同定した結果、*Thielaviopsis* sp. が分離され、県内では未発生のダイズ黒根病と確認された。
 - (2) 本病は1977年に北海道十勝地方で初めて発生が確認されている。
-
- 5 病徴及び被害
 - (1) 地上部は生育不良となり、莢数の減少や莢肥大が悪くなるとともに、地下部が黒褐色に変色し、根腐れ症状を起こす（図1、2）。側根は黒変腐敗して消失する。
-
- 6 発生生態
 - (1) 本菌は、糸状菌の一種で、土壌伝染する。
 - (2) 本菌は、罹病部に厚膜胞子（図3）や分生子（図4）を形成し、罹病残渣とともに土壌中に残留し伝染源となる。なお、厚膜胞子は土壌中に長期間生存が可能である。
 - (3) 本菌は種が同定されていないが、近縁種の*Thielaviopsis basicola* はナス科、キク科、マメ科、セリ科などの広範囲な植物に感染する土壌病原菌で、ダイズへの病原性も確認されている。
-
- 7 防除対策
 - (1) 本病に対する登録薬剤はない（令和3年8月11日現在）。
 - (2) 連作により土壌中の病原菌の密度が高まるため、発生ほ場では連作を避ける。
 - (3) 本病の発生が確認されたほ場で使用したトラクター等の農機具類、長靴などは付着した土壌をていねいに洗浄して、他のほ場に病原菌を持ち込まないようにする。また、明渠を設置するなどして雨による土壌の流出を防止する。



図1 発病ほ場におけるエダマメの生育不良株
(画像提供：新潟巻農業振興部)



図2 エダマメ根部の黒変症状
(画像提供：新潟巻農業振興部)

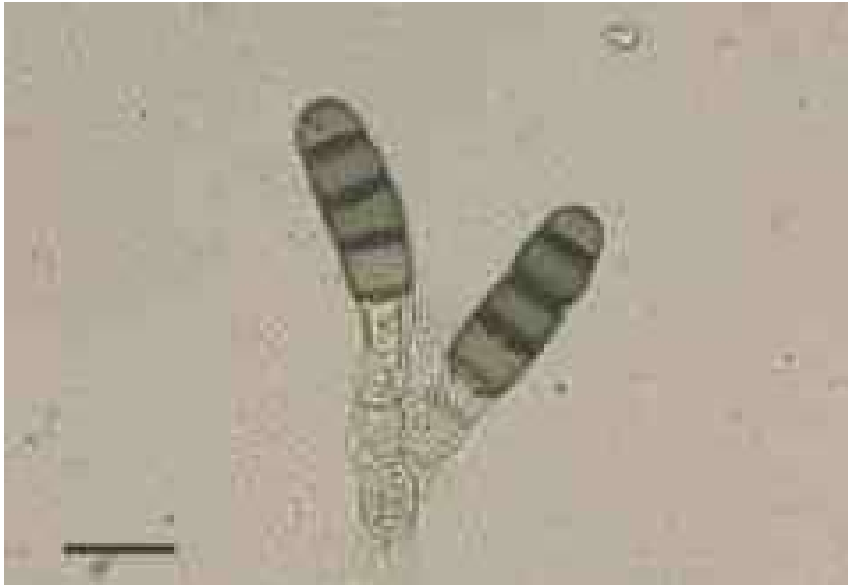


図3 病原菌の厚膜胞子（バーは $25\mu\text{m}$ ）
（画像提供：新潟県農業総合研究所園芸研究センター）



図4 病原菌の内生分生子（バーは $50\mu\text{m}$ ）
（画像提供：新潟県農業総合研究所園芸研究センター）